

市の会計は、赤字か黒字か？

◆ 一般会計の状況（令和2年度と元年度との比較）

	決算額		差引 (C)	繰越額 (D)	実質収支
	歳入 (A)	歳出 (B)	(A) - (B)		(C) - (D)
令和2年度	118,888,940	117,101,521	1,787,419	74,532	1,712,887
令和元年度	89,256,229	87,337,730	1,918,499	55,494	1,863,005

(単位：千円)

令和2年度決算は表のようになり、一見すると差引額が黒字のため、会計は黒字と見えます。

長く続いている公会計では、前年度に残ったお金を翌年度に財源として使うよう繰り越します。そのお金を含めて財政運営した収支が「実質収支額」です。

令和元年度に残った18億6300万5千円を、令和2年度の予算に組み入れて財政運営した結果、令和2年度には17億1288万7千円が残りしました。

組み入れた額より残った額が少なかったことから、令和2年度だけの収支状況を見る「単年度収支」は1億5011万8千円の赤字となります。

◆ 基金と決算の関係

「単年度収支」は赤字ですが、別の角度で収支内容を見てみます。

公会計の考え方としては、家計の貯金に当たる「基金」に積む場合、歳出と位置づけられます。

基金は増えてゆとりはできたけど、会計は「赤字」となる場合が発生します。

表面上の会計決算と、実際の財政運営に違いが発生し、会計の評価をミスリードする事態が生じます。

「それはおかしい」ということから、実質的な黒字要素を加味した「実質単年度収支額」という指標を用いる傾向となってきています。この考え方では、35億9695万7千円の黒字となります。

	積立額	取崩額	残額
財政調整基金	3,964,602,061	217,527,095	13,887,721,571
公共公益施設整備基金	547,526,296	0	4,167,662,568
減債基金	1,300,081,147	96,000,000	1,995,829,216
くらし・笑顔創生基金	481,536,790	168,507,644	1,058,078,114
その他基金	782,357,497	1,076,571,364	5,361,815,164
合計	7,076,103,791	1,558,606,103	26,471,107,633

決算についての意見（監査の立場から）

「当年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、基金の活用も勘案すべきであったと思われる。」

社会情勢に大きな課題のない時であれば、基金を増やした実績、実質単年度収支で約36億円の黒字を出した財政運営は賞賛されるものだと思います。

しかしながら、世界的なパンデミックの中、本市の市民生活・経済活動に対して、更なる支援が行えた財政状況であったことから、監査委員として上記の意見を意見書に付しました。

総務省がとりまとめた「令和2年度市町村普通会計決算」においても、トータルとして「実質単年度収支額」の総額は増えております。コロナ対策で国から交付金が多く支出された2年度に限っては、「交付金が一般財源の肩代わりをし、浮いた一般財源が基金に積まれた。」ように見えてしまいます。

公的な人材・資本を総動員する必要のあった年度として、今後行われる検証結果を待ちたいと思います。それをもって、事業の評価、決算の評価が行われるのだと思います。

委員会での質疑

【マイナンバーカードの発行】

問：マイナンバーカードの取得状況は？

答：令和元年度17.7%、令和2年度は27.5%となった。

問：年代別の取得状況は？

答：高齢者に多いと感じている。若い世代は他の証明書を持っているからだと考えている。

問：取得を増やすために出張受付をしては？

答：検討したが、コロナでできなかった。

問：コロナワクチンの集団接種会場を活用しては？

答：今年の8月下旬から、大阪電気通信大学駅前キャンパスでの会場で行っている。

問：交付場所の拡充はできないのか？

答：カードの管理や場所、体制など課題がある。

意見：そのような課題を乗り越えて、発行場所を増やしている市がある。

宮崎市は50%を超えていることから、先進市の実態を確認し、導入していただきたい。

【証明書等の窓口サービス】

問：コロナ禍において、蜜を避けるために行政手続きの郵便による受付を推奨していたが、その実績は？

答：証明書発行関係では2万件を超えているが、令和元年度と比較すると、減少した。

問：住民票等のオンライン申請の導入見込みは？

答：LINEを活用する予定であったが、他自治体の運用を巡り、総務省がダメとの見解を出した。他の手法を検討中。

問：令和2年度に導入したタッチパネル式の証明書端末が、利用されていない状況が多く見られた。

コンシェルジュなどによる誘導の状況はどうだったのか？

答：十分できなかった。業務効率が44%改善できるものなので、改善する。

問：市民サービス部の窓口の種類は6種類であるが、窓口専門職員が研修する担当は、いくつに分かれている？

答：・・・

見解：令和5年度の5月に、（仮称）駅前庁舎に窓口サービスを移転したいことから補正予算が上程された。一方で、それに従事する職員の研修がいくつあるのかさえ把握できていない。1つ1つにどれぐらいの期間が必要なのか、移転を考えているのなら、短期・中期での育成計画を策定し、しっかり通り組んでいただきたい。

※5月に移転する補正予算については、議会で否決しました。行政で再検討中です。

【公園墓地の財政運営】

問：寝屋川市公園墓地での墓地の返還の状況は？

答：令和2年度から順に遡って、41件、27件、32件、31件となっている。

問：納骨壇での返還は？

答：18件、14件、12件、30件。

問：永代使用料の返還状況は？

答：墓地、納骨壇合わせて、22件あった。

意見：公園墓地の運営には永代使用料、永代管理料以外に、一般財源も使われている。その区分をしっかりと分け、墓地においては持続可能な財政体質へと検討していただきたい。



【一人暮らしの緊急通報システム】

問：日常生活に不安のある一人暮らし高齢者に対し、緊急通報装置の設置サービスがある。自力で対応しなければならないのでは？

答：ボタンを押せば、消防署に緊急通報される。

意見：ボタンを押すことさえ、できない場合があるのではないか。今のシステムをいじり、同じ目的の機器が多く開発され、本人の操作がなく検知されるものも製品化されている。より良いものを選定していただきたい。

【中央高齢者福祉センターの機能】

問：中央高齢者福祉センターは利用に空きがない状況か？

答：その通り。

意見：この施設のある地域には、子どもの遊びスペース的な施設がない。センターのスペースに余裕があるのであれば、子どもセンター的な機能を加えることも一案と考えていた。世代間交流ができるような施設とすることが可能かどうか、検討していただきたい。

【生活保護の適正化】

問：生活保護の調査では、年金収入資産調査での効果額が大きい、その内容は？

答：保護申請に来られた場合、各種調査を行う。

中には、得られる年金の申請をしていない場合がある。本人とともに年金機構に確認するなど、実際に年金の申請を促し、年金の受給に至った結果の額を効果額として提示している。障害年金は、5年遡って受給されることから額は大きい。

【各種の医療助成費】

問：予算に対し、不用額が多く出ているが、その理由は？

答：過去3カ年の実績で予算を組んでいるが、2年度には高額な請求がなかったため。

問：高額な請求とは？

答：場合によっては1件で300万円を超えるケースも想定していた。

【たばこ対策推進事業】

問：香里園の喫煙場所について、苦情は出ていないか？

答：立地についての指摘はある。

問：隣のビルの2階が塾になっている。その弊害も聞き及んでいることから、その対策も必要だと考える。また、通学路に路上喫煙禁止の啓発看板が設置されているが、通学路における巡回の現状は？

答：巡回啓発は駅周辺のみで、通学路までは行っていない。

問：巡回啓発において、科料を科したケースは？

答：これまでに、ない。



ねやがわの
データ

中学校給食の残渣率

令和2年度において、各校の残渣率は18.8%~31.8%という状況です。

各校の残渣率は以下の通りです。

20%未満	1校
20%以上25%未満	3校
25%以上30%未満	6校
30%以上	2校

5年前との比較では以下の通りです。

マイナス30%以上	1校
マイナス20%以上30%未満	0校
マイナス10%以上20%未満	7校
0%以上マイナス10%未満	3校
増加	1校

給食のスタート時と比べると、大きく減りました。